

七日の旅

より三島までは電車あり、片道十銭、往復十八銭
みやげもの 鯛めし、鮎の鮓、山葵漬、吐月峯、小夜の中山の鮎の餅

駿河路や花橋も茶のほひ

(芭蕉)

田子の浦に打出て見れば富士の高嶺に雪は降りつゝ

(赤人)

『富士へ上ると寒いのは如何云ふ譯だらう』

『夫れや雪があるから』

第十四線 出雲大社 (舞鶴と橋立)

- ◎ 第一日 新橋 舞鶴
 - ◎ 第二日 舞鶴 宮津 天ノ橋立 宮津 舞鶴 海上
 - ◎ 第三日 境 松江 米子 安来 松江
 - ◎ 第四日 松江 庄原 杵築 庄原 松江
 - ◎ 第五日 松江 境 海上
 - ◎ 第六日 舞鶴
 - ◎ 第七日 舞鶴 新舞鶴 新橋
- ▲ 新橋より舞鶴 瀧車大阪にて新舞鶴行へ乗換へ哩 數四百五十哩、時間は前夜十一時發の瀧車にて發し翌夜十時五十三分着、約廿四時間三等賃金四圓五十七銭
- ▲ 舞鶴より橋立 鐵道院瀧船第一橋立丸にて午前九時發宮津着、十時四十分宮津より約一里橋立の切戸の文珠まで一里人力車もあり、舟も通ふ
- ▲ 舞鶴より松江 是も鐵道院連絡船午後四時半舞鶴發、翌日午前十時境港に達し境より瀧車にて米子、安来を経松江に至る此哩 數二十八哩、時間二時間、米

出雲大社

子、安来、松江に通ふ小蒸氣船あり
 ▲松江より杵築 松江より杵築の出雲大社に参詣するには松江發庄原行渡船にて庄原まで(時間二時間賃金船屋二十四錢、船首十八錢)庄原より杵築の大社まで人力車あり道程約三里賃金片道四拾錢より六拾錢

舞鶴で下車して新舞鶴の軍港見物は跡廻はしとして翌朝天の橋立へ向ふ、汽船で行けば一時間と四十分許り着間に餘裕あらば陸路、河守を過ぎ元伊勢太神宮に賽す可し、太神宮は元此地加佐郡河守上村にあつたのを雄略天皇の時伊勢へ移されしもので、今此地元伊勢と呼ばれ外宮、内宮とも小さけれども白木作りの宮柱神さびて宮川、五十鈴川、宇治橋、天の岩戸などあり、宮津街道を進み丹波と丹後の境に近く大江山、登山には佛性寺越より絶頂まで約一里、酒顔童子の古蹟も見れる可く『大江山いくの野の道の遠ければ』の歌も偲ぶ可し、『由良港千軒長者』の三莊太夫の舊地なる由良を通る、太夫の邸趾は由良川の西岸にあり、最も高き處は納涼臺なりしと傳へられて居る、傍の小祠は安壽姫を祀り、村の西北にある老松は三莊太夫が

鋸引の刑に處せられし處と云ふ、西南に丹後富士の名ある由良嶽あり、由良灣を眺め海ト雄島、沖島を數へて風光は頗る佳なり。

宮津の舟着き場は町の中心、妓樓旅館軒を並べ

『縞の財布が空になる』迄引止めんとする化性の者

あると心得なくてはなるまい、旅館は茶谷、相原

屋、筆屋、北野屋、山藤、料理店は暢神樓、宮津

より海岸傳ひに小一里にして橋立の切戸に着く、

宮津より船を僦つて行くも好し、人力も通ず、切

戸は橋立の南端僅に四五十間の海峡、天の橋立に

兩斷されたる與謝の海が潮汐を通ずる處で淺けれ

どえ流れ急、渡舟あり、切戸の文珠は其南岸にあ

り天橋山智恩寺と云ひ文珠閣あり、境内に和泉式

の墓、寶物には龍の鱗、天狗の爪、夜光の珠、白



切れ戸の文珠堂

部の塔、多寶塔、經藏、青山大膳の墓、寶物には龍の鱗、天狗の爪、夜光の珠、白

馬の角など奇々怪々のものあり、寺の傍より渡を渡れば橋立なり。橋立は北成相山の南端より南に突出し、興謝の海に幅三十七間長廿八町の橋を架けたる如く半島をなし、上には老松盤蛇の形をなし白沙と相映じ天晴三景の一たるに恥ぢざる絶勝、橋立を見るには北成相山よりと南は切戸文珠の上なる櫻山、若くは但馬城崎街道の橋(おほ)峠の三を佳しとす、成相山、櫻山よりは縦一文字、橋峠からは横一文字に見える、俗に尻を捲くつて股倉から見るに限るとも云つてある。

天橋立渡場夕景

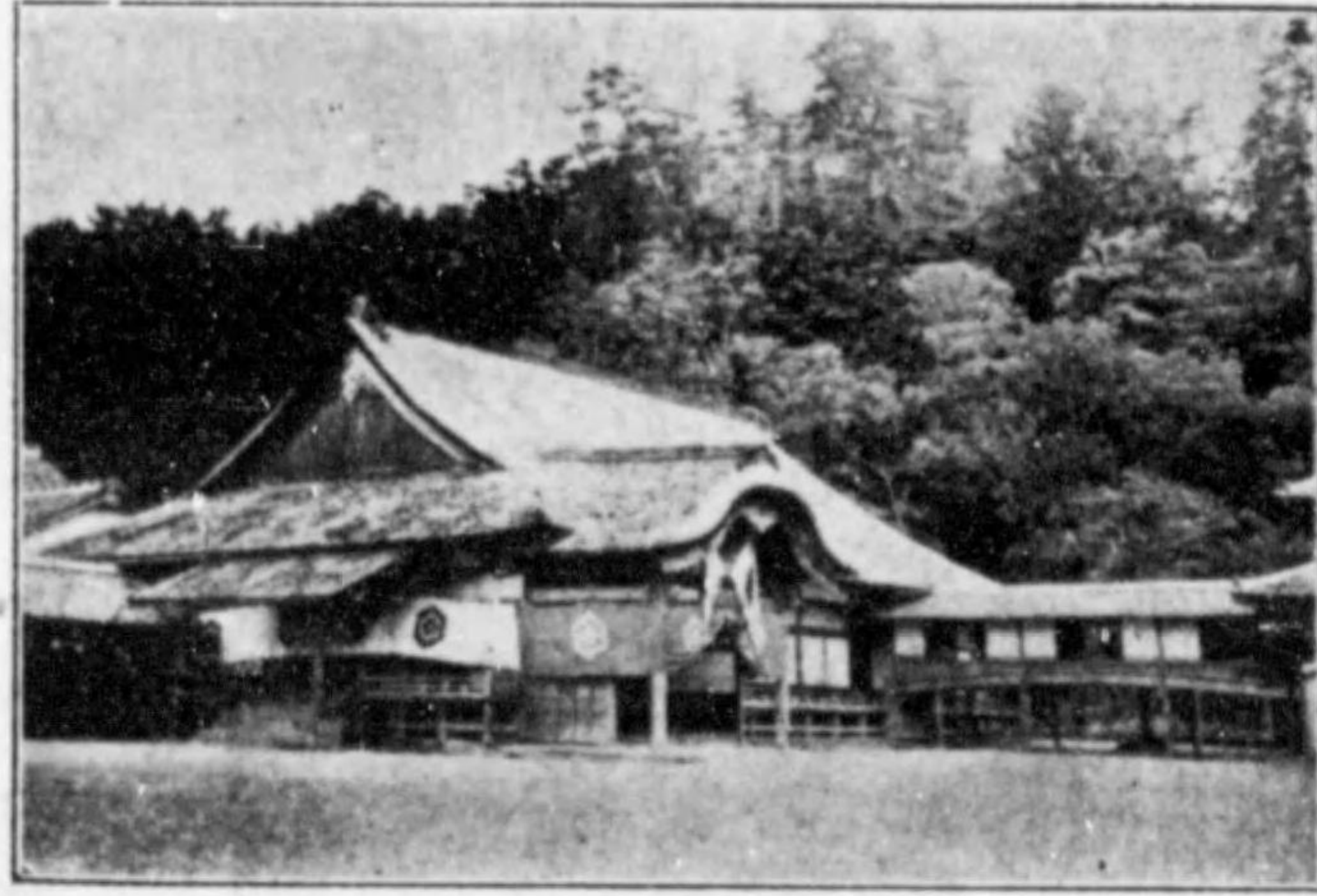


境は山陰第一の港であるが別段見物する程の事もない、對岸の美保関は海軍の定繋地で、出雲の東端、海上遙に隠岐に對し風景佳く、美保神社には事代主命、三保津姫命を祀り四

月七日に青柴垣の神事、十二月七日に諸手船の神事あり、境より松江まで汽車は米子を経て中の海の岸を走る、船で行けば中の海の入海を縦断して宍道湖と相接する處、松江大橋に着く。

松江は宍道湖、中の海の間、挾まれ南北に分れ其間を繼ぐものは松江大橋である『松江大橋流れよとまよ、よ、和田見(遊廓)通ひは船です』と云ふ程海運の發達した水郷である、旅館は皆美館、一文字屋、勝部、岩田、富田、三島等、宍道湖は鱸を産し其味支那松江の鱸に劣らずと云ふので松江の字が此地の名になつた程で、眺望も好し、鱸を味ひながら、名物の安來節でも聞けば湖上嫁ケ島のあたり夕陽漣波の上に照り映へ松江富士なる伯耆の大山雲の中に聳えて旅情を慰める事も出来やう。松江大橋から汽船庄原行と云ふのに乗つて湖の西岸庄原に下り今市を経て杵築に達す、杵築町の北端大華表を過ぎ松並木の間を二丁又鳥居を這入れば出雲大社大國主尊を祀る、背後には八雲山、鶴山、龜山、社殿は瑞垣玉垣を圍らし拜殿、社務所、八足門等規模壯嚴、神世の事の思はる、心地す可し、寶物には後醍醐天皇寄附

の谷風の琵琶、古鏡、曲玉、筑紫鉾、秀頼寄附の太閤の太刀等あり、杵築町の北八



出雲大社

雲山、鶴山、龜山は日の御崎にて盡く、日の御崎には下の宮本社に天照大神を祀り上の宮本社に素盞鳥尊を祀る、此邊り海岸の風景絶佳にして海水浴に適し三里濱に旅館養神館、保壽館あり、杵築町には因幡屋、大島屋、竹の舎、森龜樓等あり民情淳朴物價低廉にして宿泊料も僅に三十錢より七十錢位、杵築町は商船會社の山陰線の寄港地であるから、石州の濱田等を経て馬關に出る事が出来る。

境に出で、舞鶴へ直航するも好し、又山陰線の流車を利用して鳥取まで行くとすれ

ば途中見る處も多し、鳥取からは山傳ひにて七阪八峠などを越えて播但線に出るもよし、鳥取より一里半の賀露港に出で舞鶴へ海路を行く事も出来る。

伯耆の大山一に大神山へは淀江停車場より下車、尾高道を取れば山麓に大巳貴尊を祀れる大神山神社に詣で山を上つて大山寺に賽す可し、大山寺は古來比叡山と並び稱された天台宗の巨刹、堂塔無數、境内より山陰山陽近畿二十餘州を望み日本海の隱岐の島、眼下には宍道湖、中の海を眺め真に天空海濶の懷あり、御來屋(りやく)停車場より三丁にして名和神社あり、社前櫻の並木より正面に隱岐の島を見、延元の昔を想望するに足る、歸途海岸の一茅舎に後醍醐帝の船繋岩を見、更に大山々脈の北なる船上山に上らんとすれば二里、行在所跡は今天皇屋敷と云ひ僅に樹林中の平地なり、松崎に下車すれば有名なる東郷の湖畔に出づ、湖中温泉あり、日本第一と云はる、鰻あり、加ふるに景色は好し、氣候は好し、一日や二日は忘れて過ぎて仕舞ふ事にならう。

山陰線の終點は「因州因幡」の鳥取市である、市の東南一里に稻葉山、此山の下に

出雲大社

因幡の國主たりし中納言行平の邸があつたと云ふので『立わかれいなばの山の峰に
生ふる松としさかば今かへりこむ』の歌が此山を詠だものである事を確かめられる、
市より東へ一里摩尼山の麓に摩尼寺、市より西に二里湖山池、地は周圍三里餘、青
島、團子島などあり景色よろし、南岸には濱村の温泉、鹽類泉にてリユーマチス、
微毒に効あり、湖山池の西一里なる吉岡の温泉は上下二つに分れ上は鹽類泉、下は
硫黄泉。
賀露より船に乗つて舞鶴へ着き先づ舞鶴即ち西舞鶴の町を見物し、東舞鶴即ち軍
港を見物した後此線の終點たる新舞鶴より流車に乗る可し。

▲みやげもの

干鰯(舞鶴、宮津) 白珊瑚の箸、海松のパイプ(鳥取) 瑠璃細工、八雲塗、
樂山焼(松江)

八雲たつ出雲の神をいかに思ふ大國主と人はしらすやも

(宣長)

湖口連橋一万家、水磨明鏡映窓紗、依稀喚起曾遊夢、此是神州日捏華 (青津)

『如何だい、橋立から宮津の方へ最一度行かないか
『いや懲りくです
『は、ア、さては綿の財布を空にしたな
『い、え、おみやげが怖ろしい

▲第十五線▼ 妙義と榛名

- ◎ 第一日 上野 磯部
 - ◎ 第二日 磯部 妙義町 妙義山 妙義町
 - ◎ 第三日 妙義町 磯部 高崎
 - ◎ 第四日 高崎 榛名山 伊香保
 - ◎ 第五日 伊香保 澤渡 四萬
 - ◎ 第六日 四萬 草津
 - ◎ 第七日 草津 前橋 上野
- ▲ 上野より磯部 上野より日 鐵線七十四哩 瀧車賃三等壹圓十四錢、時間は三時間半
- ▲ 妙義登山 磯部より二里人力車にて妙義町まで賃錢卅五錢、登山案内者は金五十錢を投せば雇ひ得可きも案内者なしにて行かれぬ事はなし
- ▲ 磯部より高崎 瀧車十哩三等賃金十八錢、時間僅に三十分
- ▲ 榛名登山 高崎より室田村まで五里人力を通ず、夫より山に掛る

- ▲ 榛名山より伊香保 榛名に登山して二ツ嶽を下りて麓は伊香保なり、前橋より瀧川迄四哩を馬車に乗り夫より約二里を人力車にて(賃金四十錢前後)走らするを本道とす
- ▲ 澤渡と四萬 澤渡へは瀧川より四里にて中の修町に出て音津川の流に沿ひ山に入る三里、伊香保よりは山越に中の條町まで三里なり、四萬へは澤渡より四萬川の流に添ひ山中に分け入る二里
- ▲ 草津温泉 へは澤渡より暮坂峠を越え小兩川を渡り約十里、高崎より室田、長野原を經る途あり、又輕井澤にて下車し小淺間峠を越え砂原六里の道が横切るもありいづれも十里以上の行程なり
- ▲ 赤城山 草津より高崎若くは輕井澤に出で前橋まで瀧車にて戻れば旅行序に赤城に登山する事を得可し、前橋より赤城まで六里廿五町、赤城の麓小暮まで人力車にて五十錢、是より絶頂まで四里
- ▲ 前橋より上野 瀧車六十九哩、三等賃金一圓八錢、時間四時間

磯部の停車場で下りると一町あるかなしで磯部の温泉へ着く、磯部の温泉と云へば一頃は大變な勢で、豪商紳士などが争つて別荘を拵へたりして非常な景氣であつたのが、昨今は稍衰微の模様ではあるが妙義へ上るには是非一夜を此地の旅館風來館又は對岳館に明かして登山の準備をしなければなるまい、温泉は炭酸冷泉で皮膚病などに好い、宿料は一泊五十錢から一圓位まで、甘い食物もないか知らないが至極安直である、佐々木盛綱が築いたと云ふ磯部城の跡は東南へ十町許の東横野村字鷺宮にあり、周圍八町頂上は平地になつて居る、城趾の傍に盛綱の墓もある、大野九郎兵衛の墓もある。

磯部から人力で妙義に向ふ、忽ち前面に見えるのは妙義三峰、白雲、金洞、金鶏の内白雲山中腹より下に一村落の見えるのは妙義町で、宿屋には菱屋と云ふのがある、先づ白雲山の日本武尊を祀つた妙義神社に賽し、金洞に上る中の嶽の一の華表より一町にして菅公硯の水、夫より轟として天を摩する第一の石門、第二石門より路頗る峻にして急、一步を過れば底知れぬ谷に轉げ落ちる虞あり、第三第四の石

門を過ぎて、妙義神社の奥社、髯剃岩あり、僅に足痕を尋ね鐵鎖に絶れば絶頂まで上れぬ事はないのだ、外に觀音岩、夫婦岩等を見、戻つて中の嶽一の華表より金鶏山に向ふ可し、茲にも蠟燭岩の奇勝あり。

妙義より磯部を経て高崎に歸る、高崎の宿屋は信濃屋、堺屋、崎館、見物す可き處は高崎公園の頼政神社、烏川の梅、乗附山の藤、山の上の碑は(上野鐵道線吉井驛より二十町字池村にある多胡の碑と金井澤の碑の三つにて上州の三碑と云ひ何れも千年以上を経たる古碑なり)停車場より一里半山名八幡宮の裏山十二町の處にあり、更に上り下りで十五町の處に金井澤の碑あり上野鐵道吉井驛より約二十町にて多胡の城趾、夫より數町にして多胡の碑に達す。

榛名山へは高崎市より室田村を経て登山す、一の華表、二の華表を過ぎ榛名山中の民家を経て、十數段の石段を上り切り青銅の大華表を入れれば榛名神社の境内なり第一に隨神門、御祓橋、三重塔、袖摺岩、神橋を経て双龍門、鉾ヶ岳の奇勝を見物してから社殿に到る、榛名神社は彦由支命を祀りしもの社殿の建築は質素にして而

妙義と榛名

も彫刻に見る可きもの多し、社殿を過ぎ山を登る數町にして葛籠岩を見、榛名湖の



湖名榛

畔に出づ、榛名湖の東南岸には花菖蒲類の多く伊香保富士、烏帽子ヶ嶽、鬘櫛ヶ嶽等歟波に其姿を寫して絶景なり。伊香保の温泉には前橋より澁川町まで、夫より二里人力車、又榛名湖の二つ嶽を下る事一里にしても殆ど同様なりの時間で伊香保温泉へ出られる伊香保の温泉は町より南の郊外字上の山に湧出すのを數十の温泉宿で分ける様に出来て居る、まづ目貫の宿屋は聚源館(木暮武太夫)挹翠樓(木暮金太夫)等で外に數十軒、宿料は壹圓以内、伊香保には伊香保神社、物聞山、船尾の瀧等見物する處

も妙くはない。

澤渡の温泉へは前橋から鐵道馬車で澁川まで夫より四里にて中條町に入り(伊香保より山越にして吾妻川を渡れば三里)吾妻川の流に沿ひ山に入る事三里にして遠す、三方は山、吾妻川と四萬川との相合する處にして激流奔湍、水聲雷の如き處にして源泉は山間の岩窟より湧出し無味無臭の鹽類泉で胃病、皮膚病等に効能がある宿屋は福田、關口、宿料は伊香保より更に一段低廉なり、澤渡にて天神山、藥師山等の名所を探り夫より四萬川の流に沿ひ北、山の中に踏み込む事二里、山迫り谷狭き處に新湯川を中心し浴舎の相連なる處は四萬の温泉である、茲も鹽類泉、田村、關等の温泉宿あり、更に北する十五町で日向見の温泉あり、瀧いくつもあり鹽原の小さいもの、澤渡、四萬とは方角を異にし中の條町より吾妻川を渡り西に四里、吾妻川を控へ金鷄山の中腹に位して川原の湯あり、宿屋は萩原、温泉は硫黄泉で皮膚病、腫物等に好い。

草津の温泉へ行くには輕井澤の停車場で下車して小淺間の峠を越えて六里の道もある、高崎からも道があるが、澤渡温泉から暮阪峠を越え小雨川を渡り道程約十里

妙義と榛名

ばかりで行かれる、日本第一の硫黄泉で皇極天皇の時代に発見されたものだからな
中にも温度の最も高い熱の湯の如きは一二三の號令で這入つて若し過れば火傷をす
る程だと云ふ、日新館、一井、望雲館、大東館等の旅館あり一日五十錢より八十錢
位、土地高ければ夏季中春の花を見、秋の蟲を聞く事が出来る、茲から三里で活火
山、白根山に行かれる。

前橋へ戻つて市中を一巡見物して赤城へ登山すれば、妙義、榛名を合せて三山を
踏破した事になる、山は前橋から東北へ六里廿五町、山麓小暮と云ふ處で仕度をし
て登山の途に就く、小暮からは絶頂まで四里嶮はしい阪道を二里で右に硯石山、左
に鍋割山を見、更に一里で小沼、又二十町で大沼に着す、大沼は石垣湖と云つて火
山原湖で水静に四方の峰巒影を宿して箱根湖や中禪寺湖と同じ趣きがある、赤城神
社は湖の南岸にあつて豊城入彦命、磐筒男命、大山咋命の三神を祀つたもので、毎
年舊曆四月八日に祭禮がある、山腹に瀧澤の不動あり、山頂よりは天氣さへ好けれ
ば關東八州が一眸に見える、前橋へ戻り東京へ歸る。

みやげもの 湯の花、湯の花染、高山植物、盆栽、挽物細工、織物

我戀はまさかもかなし草枕多胡の入野の奥もかなしも (萬葉)

伊香保なる物開山のほととぎすにこらぬことに聞ゆなるかな (夫木集)

『伊香保へ湯治に往つて如何だ
』重体になつて歸つたよ
』戀の病が
』いゝや貧の病が

▲第十六線▼ 北陸めぐり

- ◎ 第一日 新橋⇌敦賀⇌福井
 - ◎ 第二日 福井⇌大聖寺⇌山中
 - ◎ 第三日 山中⇌山代
 - ◎ 第四日 山代⇌動橋⇌金澤
 - ◎ 第五日 金澤⇌七尾⇌和倉
 - ◎ 第六日 和倉⇌七尾
 - ◎ 第七日 七尾⇌新橋
- ▲ 前橋より敦賀 前夜七時三十分發の流車に乗り込みは米原にて乗換翌朝九時廿六分に敦賀に着く、哩 數四百十三、三等賃金四圓八錢
- ▲ 敦賀より福井 流車哩數三十五哩、三等賃金五十八錢、時間三時間と十八分
- ▲ 福井より大聖寺 流車廿哩、三等賃金三十三錢、時間一時間五十分
- ▲ 大聖寺より山中、山代 大聖寺より山中までは三里、馬車あり、山中より山代一里十町、山代より動橋停車場へ一里

▲ 動橋より金澤 流車二十八哩、三等賃金四十五錢、時間二時間

▲ 金澤より七尾 哩 數四十哩、三等賃金五十七錢、時間二時間四十分、七尾より和倉溫泉へは二里十五町

▲ 七尾より新橋 金澤及び米原にて乗換、哩 數五百十哩、三等賃金四圓七十錢、時間七尾を午前十一時四十分發にて出で金澤にて乗換二時三十六分發車、米原にて午後十一時十九分發三等急行車に乗れば翌朝十一時新橋着

敦賀は近年日本海沿岸で第一の港になつた、否浦鹽斯徳との直通航路が開けてからと云ふもの世界の最短一周線になつて居るので町中の景況を見ても一寸一風變つた處がある、宿屋は云ふに及ばず理髮店などが立派に露西亞字の看板を掛けて居るのなどが夫れた、旅館は具足屋、長岡屋、米七、阪本屋、出雲屋等で、見物す可き處は氣比神宮と金ヶ崎宮であらう、氣比の神宮は敦賀停車場の直ぐ傍にあつて、仲哀、應神二帝と神功皇后とを祀つた官幣大社、境内の梅樹は一ツの花に數筒の實を結ぶので八房の梅と云ふ名がある、金ヶ崎宮は敦賀港の東北端海中へ突出した百五

十尺も高い山の上にあつて新田義貞兄弟が茲に兩親王を奉じて北軍に抗したが遂に敗北と云ふ悲惨な事實のあつた古城跡で今は官幣中社になつて居る、金ヶ崎と相對し南朝の爲めに盡した瓜生保の立籠つた杣山城と云ふのは鯖江の停車場から一里の處にある。

福井は元北庄と云つて柴田勝家の居城、五嶽樓、繩屋、風月樓、菓子屋、煙草屋、雀屋、幾代等の旅館がある、新田義貞の戦死した處は福井から北へ二十町ばかりの西藤島村、義貞の靈を祀つた藤島神社は福井から僅に四町許の處にある。

曹洞宗の大本山永平寺は福井から四里、道元禪師の創建で此邊での巨刹である、福井と金澤との間に位して大聖寺がある、九谷焼の本場、山中温泉へも山代温泉へも茲から僅の道程である、大聖寺川の上流山相迫つた處山中温泉がある、温泉宿は吉野屋、三谷屋、扇屋、龜屋等二十四軒、川を溯る事尙五町で蟋蟀橋の邊水石の眺め凡ならず、川魚直に料理して一杯を酌ましめる茶屋が幾軒もある、山代は山中より西南へ一里餘、温泉宿はあら屋、くら屋、白根屋、高谷等十八軒、建物山中よ

り立派、山中が總湯ばかりで内湯のないに比べて、山代には内湯があるから好い、宿料は四五十錢より一圓。

山中、山代で遊んで後は動橋驛へ出る、茲から西南へ約一里で片山津の温泉と云ふのは柴山湖に面し景色は佳し、宿は森本、湯出、辻等、山中、山代よりは手軽な處である、動橋驛から一里で那谷寺(きた)、眞言宗の名刹、山は櫻と紅葉多く、嘗て花山法皇が紀州の那智と美濃の谷汲を兼ねたるものと御賞美ありて那谷寺と名を付けられたのださうだ。

動橋から金澤へ汽車の途中、松驛の附近は安宅の關の古蹟であるが、辨慶の勸進帳を讀だ關所は今海の中にあつて、安宅の町と云ふのが驛から一里ばかり。

富士山の次と云ふ高山加賀の白山に上る途は四つばかりあるが金澤市を出て鶴來町、吉ノ谷、尾口、白峰まで約十三里、市瀬温泉に達して山道に付いて三里、室堂と云ふ休み所あり、是より上は焼石のみにて草も木もなき處を八町にして絶頂海抜八千六百八十一尺の測量標あり、絶頂を大御前と云ふ、下つて室堂に歸り別山に登

北陸めぐり

るには又三里、途中六兵衛室あり、別山より市瀬温泉に下る二里十町、山中瀧多し雄谷の千俣瀧は高十五丈幅一丈五尺、雌谷の二重瀧は高十丈幅一丈二尺、別山の龜瀧は十八丈と三十丈の二段となり、赤谷川の布引瀧は高三十丈幅一丈、壯快山中第一としてある。

金澤は昔は万石の御城下、今では北陸第一の大都會、見る可きものは非常にあり、先づ一番に万石の紀念に残る金澤城の趾、夫も明治十四年に火災に遭つて残るのは石川門だけである、城から東南堀を隔て、日本三公園の随一と稱へられて居る兼六公園がある、兼六とは宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を象ねると云ふので白河樂翁公が命名されただけであつて、一木一石も苟もせず技巧極まつて自然を凌ぐものあり、春夏秋冬四季折々の眺め宜し、市内西町の尾山神社は前田利家以下藩祖三代を祀つた別格官幣社で茲の庭も中々好し、神門は三階で建築頗る面白く而も位置高き爲め是に上れば市中は双眸の下に集まる、金澤の旅館には淺田、毛利、住吉、大浦谷、雨夜、瀉部、白山屋、一又、高島、源圓等あり、遊廓は東西

北の三廓あり。

市を離れる事粟崎街道を一里半にして河北潟に着す、河北潟は蓮湖、大清湖等の名あり周圍七里、長汀曲浦の間松樹の間に漁家點々景色は名物の白魚の味と共によろしく。

能登半島に入つて七尾に行く、北陸海運の要衝で商業は非常の繁盛、旅館は米田宮木、輪島、野崎、阪上等、町の見物を勿々にして有名な和倉温泉に行く、和倉は元温泉が海中より湧き出したる爲め涌浦と云つたのを字だけ今のに改めたのであると云ふ、温泉宿和歌崎、小泉、多田等の二階から眺めると前には能登島、辨天島の眺望あり、屏風崎は名の如き形に海中に突出し、衝立島、机島、猿島等島多く、松島の小なるものと思へば間違なし、但し海深ければ浪高き時などの壯觀は松島では見られぬ處である。

鳳至郡櫛比村に曹洞宗の本山總持寺あり、能登の西海岸には珠洲岬の絶勝あり、鑛泉も湧き出せば悠くりした旅なら是非立寄る可く小木には九十九灣の名所あり、

七日の旅

能登は海岸奇勝に富み、且つ船便あれば能登めぐりを試みるも宜し。

みやげもの 雲丹、若狭塗、丸谷焼、山中塗、輪島塗

霜滿軍營秋氣清、越山併得能州景、數行過雁月三更、遮莫家鄉懷遠征 (謙信)

「加賀百萬石は前田と極まつてるが、越前は誰だらう」
「知れた事、名奉行の大岡忠相さ」

▲第十七線▼ 奥羽一週

- ◎ 第一日 上野△△△ 米澤△△
 - ◎ 第二日 米澤△△ 山形△△
 - ◎ 第三日 山形△△ 秋田△△
 - ◎ 第四日 秋田△△ 雄鹿△△ 牛島△△ 秋田△△
 - ◎ 第五日 秋田△△ 弘前△△ 青森△△ 浅山△△
 - ◎ 第六日 浅山△△ 盛岡△△ 一ノ関△△
 - ◎ 第七日 一ノ関△△ 平泉△△ 上野△△
- ▲ 上野より米澤 舊日鐵青森線に乗り福島にて乗換へ、哩數百九十一哩三等賃金二圓四十錢、上野を前夜八時廿五分發の速車に乗れば乗換なしにて翌朝七時六分米澤着
- ▲ 米澤より山形 是哩數廿九哩、四十八錢、時間一時間廿五分
- ▲ 山形より秋田 是哩數百卅一哩、賃金三等にて壹圓八十錢、時間六時間半
- ▲ 秋田より雄鹿 秋田より二つ目の停車場追分驛にて下車(哩數八、三等賃)

奥羽一週

金十四銭、時間十二分、海岸三里にして奥農村に至り雄鹿島渡、口八龍橋に達す
 ▲秋田より弘前、青森 秋田より弘前は瀧車哩、數九十二、三等賃金一圓卅
 八銭、時間約六時間、青森へは日取を見て秋田より切符を買ふ方利なり秋田より百
 十五哩、賃金壹圓六十三銭、時間は弘前より一時間
 ▲青森より淺蟲 瀧車九哩、半、三等賃金十六銭、時間廿八分
 ▲青森より盛岡、一ノ關 青森より盛岡まで哩數百二十六、三等賃金一圓
 七十五銭、一ノ關までは百八十三哩、賃金二圓卅一銭、時間、盛岡まで六時間半、
 一ノ關まで九時間十五分、通し切符にて盛岡に下車するが便利なる可し
 ▲一ノ關より平泉 哩數僅に四哩半、三等賃金七銭、時間十二分
 ▲平泉より上野 哩數二百八十二、三等賃金三圓十四銭、一ノ關よりは二百
 七十三哩、三圓七銭、(急行車は平泉に停車せず) 時間平泉よりは十五時間十四分
 一ノ關より急行にて十二時間四十五分
 ▲瀧車を郡山で乗換へて岩越線に這入ると熱海停車場には熱海温泉がある、宿は松
 本屋、泉質は炭酸泉、胃病や腸の悪い人に利く、猪苗代湖は翁島停車場で下車す

は好し、有栖川宮殿下が御別邸をお作りになり自動車で往來をなされてから文明の
 空氣が急に此山奥まで這入つて湖畔に温泉宿を建て様などの計劃があるさうだ、湖
 水の傍には例の破裂した盤梯山が屹然として聳えて居る、若松は維新の新史蹟、舊
 城を見物し、序に飯盛山に白虎隊の碑を訪ふ可し、東山は若松の停車場から一里十
 五町、景色面白き湯川の兩岸に古瀧屋、二八屋、櫻屋等の温泉宿澤山あり、怪しげ
 の湯女も澤山あり、宿料廉しと雖も決して財布の紐を緩める事無用、若松より北六
 里の柳津町より數町に虚空藏堂あり、石段を上り切ると仁王門、本堂は結構壯麗、
 眺望は絶佳。

米澤市にては先づ舊城趾を見物す可し、今は松ヶ岬公園となり居り、舞鶴橋を渡
 りて舊大手門は公園の入口、中央に上杉謙信及び上杉治憲を祀れる上杉神社あり、
 字林泉寺町の林泉寺は市内第一の巨刹、直江山城寺の墓あり、市より東へ廿五町、
 繼信、忠信の父佐藤正信の宅趾あり、佐氏泉公園と呼ばれ園内に父子三人の小祠あ
 り、米澤にて宿をとれば遠藤、梅津、渡邊、市より西北一里廣幡村字成島に成島八

幡あり、坂上田村麿が築きし城跡なりと云ふ、龜岡の文珠堂と云ふのは米澤からは四五里、糠の目停車場からは一里、春日作の文珠菩薩を本尊としたるものにして、本堂傍の櫻の幹に文珠菩薩の形現はれ居るを以て人に知られて居る、同じく糠の目より五里、伊佐澤村字蜂屋敷に久保の櫻あり、坂上將軍の侍妾玉と云ふもの將軍を慕ふの餘り病死したるを將軍憐みて墓畔に植ゑたる櫻なりと云ふ、幹の周圍三丈五尺、高四丈五尺、枝の張る事十六間、有名なる赤湯の温泉は米澤より四里、大湯、丹波湯、井湯、森の湯の四に分れ鹽類泉にして港屋、堺屋、大和屋等の温泉宿あり上ノ山停車場にて下車すれば上ノ山温泉あり、鹽類泉にて始め鶴が脛を漬しては傷を癒し居るを見て發見せし爲め、鶴脛の湯とも云ひ、瀧澤屋、龜屋等に浴客常に集ふ、上ノ山より西へ四里、酢川の上流に高湯温泉あり、是も鹽類泉、熱度は附近の温泉中にて第一、宿賃低廉四十錢より五六十錢位

山形市は元の名は最上、八幡神社、湯殿山神社、鳥海山神社に賽し、市を去る東一里の千歳山公園を訪ふ、山は松樹多く千歳山の名あり、天平年間の創建に係る藥師堂、阿古屋の松あり、頂上よりは月山、羽黒山を眺め市の賑なるを見て眺望よろし、大沼の浮島と云ふのは市から北へ五里左澤(あいらぎ)まで車にて八十錢、大沼は東西二百間南北三百間、松の生へた大小の島が、風のまにまに浮遊する様は頗る珍らしいもの、浮島神社として神様が鎮坐して居る、山寺の勝は妙義の奇には及ばざるが如し、市よりは三里半、漆山停車場より南に二里、案内者に十錢を與ふれば仁王門よりお手掛岩、彌陀洞、琵琶石、入定窟、開山堂、夫より右には五大堂、旭觀音に至り、左に奥の院に至る間奇巖怪石、天狗岩、胎内竇、垂水石、鹽石、潜水岩あり、山寺の歸途には左澤より東北に十町最上川の東岸、岩石高く聳え、流れ全くよどみて、瀧をなす處、柏瀧(かしわ)を見物す可し。

『雲の峰いくつ崩れて月の山』と芭蕉の詠みし月山をはじめ羽黒山、湯殿山は急ぐ旅にては上る事出来ざるも、暇あらば是非探る可し、東田川郡手向村より先羽黒山に上り羽黒神社に賽し月山に月山神社、湯殿山には大山祇命、少彦名命、大己貴命を祀れるも社殿なく靈窟を拜して下山するものとす、天童停車場より十里湯殿山

に上り、月山より羽黒山に下山するの道もあり。
 最上川下りを試みるとすれば大石田停車場より船を備へば五六時間にして酒田迄
 下る、途中四十八瀧の勝あり、危険少くして趣味多き富士川下りに勝るかも知れず
 船酒田に着すれば鳥海山に上るもよし、吹浦に羅漢岩を見るもよし、更に「象海の
 雨に西施がねふの花」の象瀉を訪ふもよし、九十九島、八十八瀧、松島に比せられ
 し勝地も文化の地震の爲め今は碧海桑田となりて名のみ空しく残つて居るのである
 秋田より雄鹿に向ふには追分の停車場にて下車し典農村より雄鹿の渡口たる八龍
 橋を渡り八龍神社、脇本の古城趾を訪ひ船川港に着し、鵜の崎の奇勝に先づ目を驚
 かし臺島にては雄島、雌島、椿村にては妙見堂の椿と椿灣の絶景、双六灣にては賽
 にも紛ふ島々の形、小濱の岩窟観音、帆掛島を見、西に本山に本山神社あり、途嶮
 しけれども絶巔樂師堂に上れば眺望甚だよし、海静ならば島めぐりをなし雄鹿の眞
 髓を探り得可きも、然らざれば陸路大瀧、白絲瀧を見、寒風山に上れば八郎瀧は鏡
 面の如く雄鹿の諸勝一々指呼の間にあり、茲より八龍橋に歸り雄鹿一周は了る。

能代より大館を過ぎ、大湯澤、碓ヶ關、大鰐にはいづれも温泉あり、弘前の舊城
 を見、津輕富士の名ある岩木山に上り、暗門瀧(あんもん) (弘前停車場より十一里)浪岡
 城趾、十三瀧(大釋迦停車場より十五里)を見、青森に入る。
 青森にては善知鳥(よ)神社あり、今浦公園あり、停車場より三里の田茂木野は第
 五聯隊兵士が雪中行軍に凍死せし處、今やその森に記念碑あり、青森の名物として
 は佞武多を見る可し、舊曆七月一日より六日迄各町より紙人形を作り是に裝飾し七
 日の朝堤川に流すものにて市人悉く狂するが如くになり見物なりと云ふ。
 淺蟲の温泉は淺蟲停車場より僅に一丁、青森灣に面し遙に斗南半島の恐山を眺む
 る海岸にあり、氣候温暖、避暑避寒のいづれにもよろしく、椿の湯、大湯、大湧の
 湯、五郎兵衛湯、裸の湯、柳の湯、日の湯、鶴の湯等あり、昔里人麻を蒸すにの
 み用ひしより麻蒸の名ありしを今の字に改めしなりと、旅館は東奥館、海老屋、三
 國屋、小宮山、田村等いづれも宏壯にして萬事整頓し、而も宿料は六十錢より八十
 錢、壹圓の見當なり。

福岡停車場より二里で、湯田の温泉あり、福岡町より一ノ戸に行く間に末の松山あり、沼宮内に頼義が弓弭を以て巖頭を突き清泉の湧き出せし處と云ひ傳へる弓弭の清水あり。

盛岡に来て裁判所門内にある石割櫻を見る可し、樹は高七尺、長二丈、幅八九尺の大岩石の間より叢生し頗る異様の感をなさしむ、公園を見物して次は舊城内南部家累代の靈を祀れる櫻山神社に賽し三ツ石、見馴松等をも一覽の事、盛岡停車場から三十町で安倍貞任の厨川の柵趾、巖手富士の名ある岩手山に上るも盛岡停車場より可し同山中鎌倉森と小松倉山との間にある網張温泉までは七里、花巻停車場より二里六町豊澤川に沿ひ志戸平温泉、豊澤川を溯る一里にして大澤温泉、猶溯る事二里にして鉛温泉などあり。

平泉停車場より下車、藤原清衡が居館の趾にして平泉より高館に至る間、皆邸跡柳御所は今の高館の東南新山村にあり、有名なる中尊寺は平泉より十八町、中尊寺は元壯麗のものなりしも建武年間火災の爲め全部焼失、今は金色堂一名光り堂と經

藏の二あるのみ、金色堂は芭蕉の所謂『五月雨の降り残してや光り堂』にして方僅に三間悉く布張の上に漆を塗り是に金箔を置き、内外は悉く螺鈿丹碧の色美しく中に清衡、基衡、秀衡の棺を安置しあり、經藏も元は二層なりしが、上だけ焼けて今は一層、けれども藏する處の一切經は國寶として珍重せられて居る、中尊寺より八町義經最期の高館に到る、土地の人は今でも判官館と云ふ、義經堂、辨慶の宅跡などあり、中尊寺と相並ぶ毛越寺も今は常行、法華二堂ある外、芭蕉が『夏草や兵どもが夢のあと』の句碑があるばかり、衣川橋の上五六町に衣川柵の舊趾もある。

一ノ關驛にて又下車、蘭梅山公園に配志波神社、大槻盤溪の墓を訪ひ、二里にして五串の溪流、一名巖美溪に行く、岩井川の上流にして阪を上れば眼下深潭の見ゆる處が五串にして行くに従ひ流も岸も木石も變幻極りなく木曾の溪を行く如き趣きあり、岩井川を上つて六里の處に酢川の温泉あり、リユーマチス、黄疽などに効あり、夏は浴客なかくに多し。

▲みやげもの 會津塗、米澤の織物、秋田蓆、能代塗、津輕塗

七日の旅

五月雨を合せて早し最上川

(芭蕉)

衣川さい穂ばかり浮き上り

(川柳)

『今度はグツと蕉翁のあとに慣つて奥の細道行脚と出懸けました
『歩いてか』いゝえ流車て

七日の旅終

著 作 權 所 有

明治四十四年一月十五日印刷
明治四十四年一月十八日發行

著者	落合昌太郎
發行者	神田區相生町十二番地 沼尾榮三郎
發行者	神田區旅籠町三丁目七番地 下田兵太郎
發行者	京橋區木挽町二丁目十三番地 新井山藏
發行者	神田區旅籠町三丁目七番地 有文堂書店
發行者	神田區旅籠町三丁目七番地 有文堂書店
發行者	日本橋 六合館
發行者	日本橋 至誠堂
發行者	名古屋市 川瀬書店

漫遊案内七日の旅の奥附
正假金七拾錢



常に汝のポケットに
清心丹を。

要意
せよ!

東京元大坂町
高木興兵衛

明治三十二年七月十五日
西曆一九一九年八月十八日

清心丹の効用
清心丹は、心火を清め、
神志を安んずる。頭痛、
目眩、嘔吐、泄瀉、
腹痛、腰痛、手足の麻痺、
一切の熱症、に極めて
効果的である。毎朝、
毎晩、各一錠を、温
かい水で飲む。小児は
半錠、老人は一錠を
飲む。此の薬は、
日本、中国、南洋、
各處に於いて、最も
有名な薬である。

大好評忽ち再版!!!

坪谷水哉君新著

著者眞に歐米に遊び、東西廿餘國、水陸三萬餘哩を跋渉し、凡そ尋常漫遊客の行所は勿論、常人の行かざる所まで遍く歴遊し、歸朝後一年餘の苦辛を積で、始めて此書成る。地理、歴史、風俗、風景、總て自ら踏る所に依り、平易流暢なる口語体の文章を用ひ、中に百餘種の眞挿み、親切の説明、精確の記事、見て面白く讀んで裨益多し、地理研究者には最も興味多き参考書、今後の洋行者には絶好の案内記、曾遊の士には懐舊の良友、單に娛樂の爲に讀むも興味紙上に溢る。

世界漫遊案内

博文館 (東京本町)

洋裝四六判特製函入
紙數七百有餘頁
石版地圖入
コロタイプ口繪四枚
正價壹圓七拾錢
寫真版百廿餘圖挿入
(郵税十錢)

一陽來復、明治四十三年の新天地は笑つて吾徒の活動を待てり。
一陽來復、二六新報の新粧は、庚戌の天地に一大爪痕を印すべく期待されり。

正義の急先鋒
人道の擁護者
官際政治家の
一敵國、弱者
の味方、平民
の友、惱める
者の慰安者、
迷へる者の指
針、二六新報
は此の抱負を
以て崛起せり
二十世紀の新舞臺に立たん者は必ず此の抜目なき助言者あることを忘るべからざる也。



◎本紙廣告料
新式活字十八字詰一回一行前金六十圓
▲雜報欄内特別廣告一行一回金一圓
●郵券一割増
◎本紙定價
一枚一錢五厘一ヶ月三十五錢▲内地
本社直送(韓國北清及南清の一部を
含む)一ヶ月郵税共前金四十錢三ヶ月
月同上十錢六ヶ月同上二十錢七ヶ月
▲外國本社直送一ヶ月郵税共八十七錢
●郵券代用一割増振替貯金二錢増
△見本御望の方は別一報を乞ふ

發行所 東京市神田 一六新報社
振替貯金口座六一七三番
電話二二六六番二六〇〇番
本局二二六二六番二五〇〇番
横濱市港町五丁目 支局
横濱市北區東梅田町 支局
大 阪 支局
電話特東二六〇〇番

報電日每

新年以後の本紙

活躍に躍ぐに活躍を以てする我毎日電報は近く四十三年の新天地を
迎ふるに當り更に一大發展を期し、先づ元旦の本紙には

▲家庭新しいるは歌留多

堅牢上質厚紙石版數度刷
字カード繪カード各四十八枚

壹組

のお年王を讀者に進呈するの外層一層紙面を刷新して、時勢の進運
に貢献し兼て清新多面の趣味に努むる處あるべし

▲英國憲政の爭論(元旦) 曩に本紙上に歐米政黨談の長篇
を載せて非常の賞讃を博したる慶應大學の田中教授は更に我社の爲
めに英國政界に於て現下の大問題となれる上下兩院の爭議、關稅政
策、社會主義的豫算につき詳細の論評を爲すべし

▲小説女優(元旦) 松居松葉新作
女優の名は現時婦人問題の中心也、作者松葉氏は久しく巴里、倫敦
にあつて俳優、就中女優問題に關し研究大に力めたるの人也、此流
行問題を解くに此女優通を以てす、艶麗花の如き筆、花の如き美人
を載せて走るところ其一句、其一笑若き婦人の心臓の波や高からん。

▲英國憲政の爭論(元旦) 曩に本紙上に歐米政黨談の長篇
を載せて非常の賞讃を博したる慶應大學の田中教授は更に我社の爲
めに英國政界に於て現下の大問題となれる上下兩院の爭議、關稅政
策、社會主義的豫算につき詳細の論評を爲すべし

▲小説女優(元旦) 松居松葉新作
女優の名は現時婦人問題の中心也、作者松葉氏は久しく巴里、倫敦
にあつて俳優、就中女優問題に關し研究大に力めたるの人也、此流
行問題を解くに此女優通を以てす、艶麗花の如き筆、花の如き美人
を載せて走るところ其一句、其一笑若き婦人の心臓の波や高からん。

本紙の大活躍

郵送は郵稅共三ヶ月金壹圓

發行所 (東京市丸の内區有樂町) 每日電報社 (振替口座五八四二番)

世界奇聞 艷麗魔傳

一 名 世 界 色 物 語

近刊

鐵道院各埠船會社檢閱

日本一の旅行案内

△鐵道時報局編纂
△交益社發行

誰れにでもわかる

便利なる早見表附

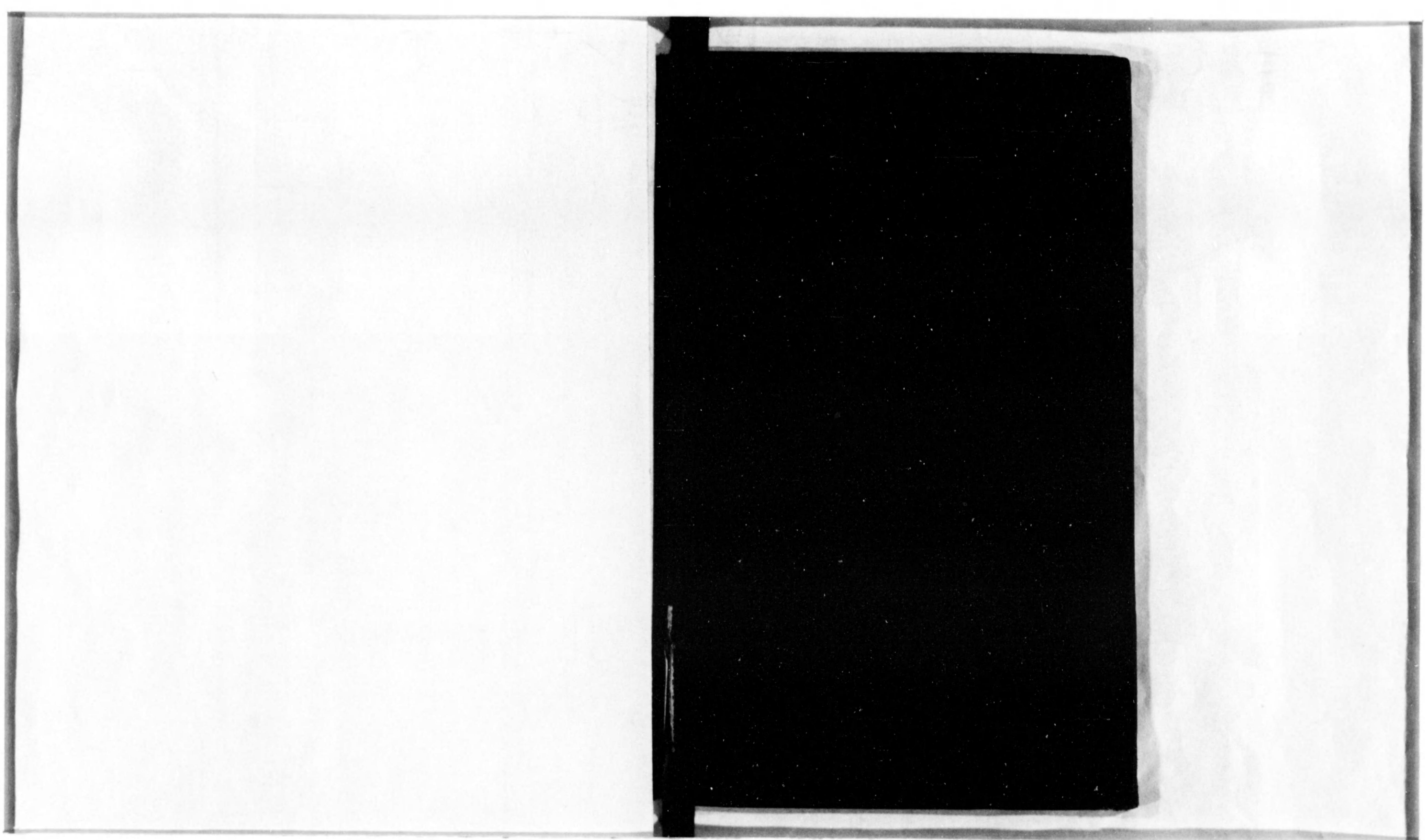
(全國各停車場及各書店に販賣す)

鐵道界の唯一の鐵道時報

東京市京橋區采女町十七番地
鐵道時報局發行

鐵道時報を讀ずして鐵道の事を知らむと欲するは猶ほ木に縁て魚を求むるが如し

72
398



72
398

Ⓜ

022742-000-7

72-398

七日の旅(漫遊案内)

落合 昌太郎/著

M43

ADB-0530



一三
四二
頁
腕
下